

# 2012 年 6 月の東北地方の天候

## 【 6 月の特徴 】

○東北日本海側では降水量がかなり少なく、日照時間がかなり多かった

### （１）2012 年 6 月の概況

月の前半は、低気圧と高気圧の影響を交互に受け、天気は周期的に変わった。オホーツク海高気圧が出現し、東北太平洋側では曇りや雨で気温の低い日が続く、東北日本海側では晴れの日が続いた時期があった。月の後半は、低気圧や台風第4号、本州付近まで北上した梅雨前線の影響で曇りや雨の日が続いたが、月の終わりは高気圧におおわれ晴れの日が続いた。

東北南部は6月9日ごろ、東北北部は6月16日ごろ梅雨入りしたと見られ、東北南部では平年より3日早く、東北北部では平年より2日遅い梅雨入りとなった。（速報値。平年の梅雨入りは東北南部6月12日ごろ、東北北部6月14日ごろ。）

月平均気温は平年並。月降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で平年並。月間日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。

### （２）各旬の天候経過

**上旬：**期間の前半は、高気圧におおわれて東北北部を中心に晴れの日が続く、期間の後半は、低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。南からの暖かい空気におおわれ高温となった。

8日は、晴れて気温が上昇したため大気の状態が不安定となり、福島県で大雨となったところがあった。9日から10日にかけては、低気圧が本州の南岸と日本海から日本の東に進み、岩手県、宮城県、福島県で大雨となった。

平均気温は高い。降水量は平年並。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

**中旬：**期間の前半は、オホーツク海高気圧におおわれ、東北太平洋側では冷たく湿った東よりの風の影響を受け曇りや雨で気温の低い日が続く、東北日本海側では晴れの日が続いた。期間の後半は、低気圧や台風第4号の影響で曇りや雨の日が多かった。

19日から20日にかけては、台風第4号が本州を縦断したため大雨となり、岩手県、宮城県、福島県で日降水量100 mmを超えたところがあった。また、石巻で22.4 m/s、若松で11.5 m/sの日最大風速を観測し、6月の日最大風速の極値を更新した。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で低い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。

**下旬：**期間のはじめは、低気圧や気圧の谷、オホーツク海高気圧の影響で曇りや雨の日が多かったが、その後はオホーツク海から高気圧が南下して東北地方をおおったため晴れの日が続いた。寒気におおわれたため、気温は期間の中頃まで低かった。

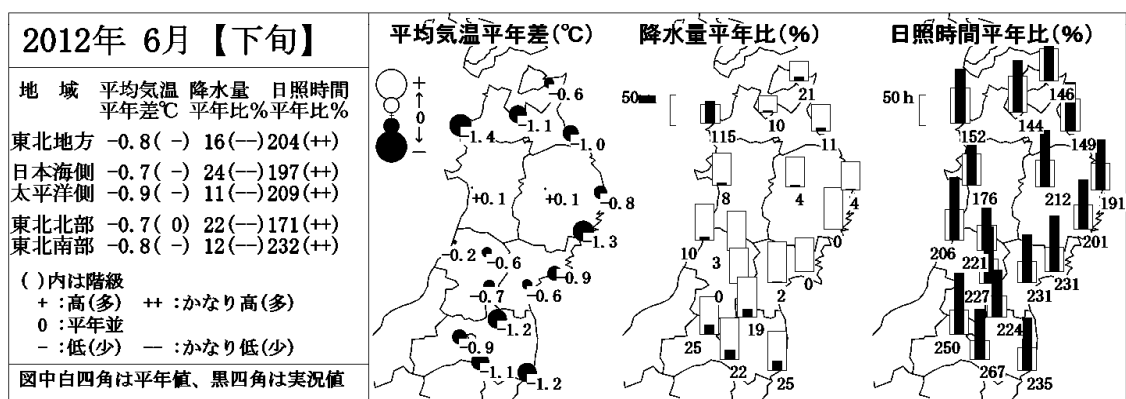
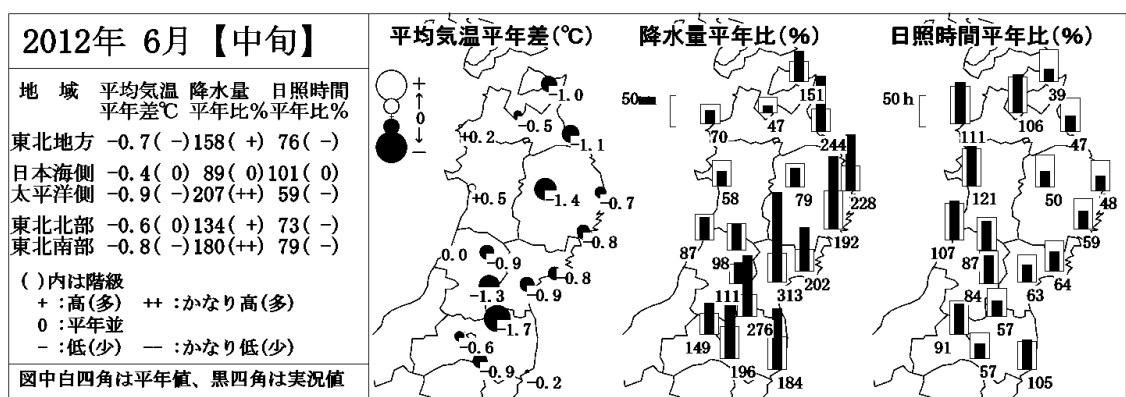
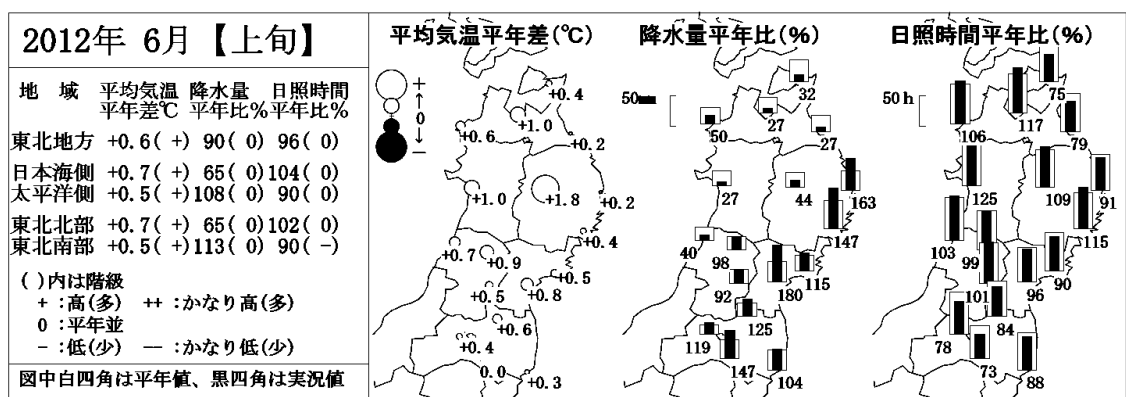
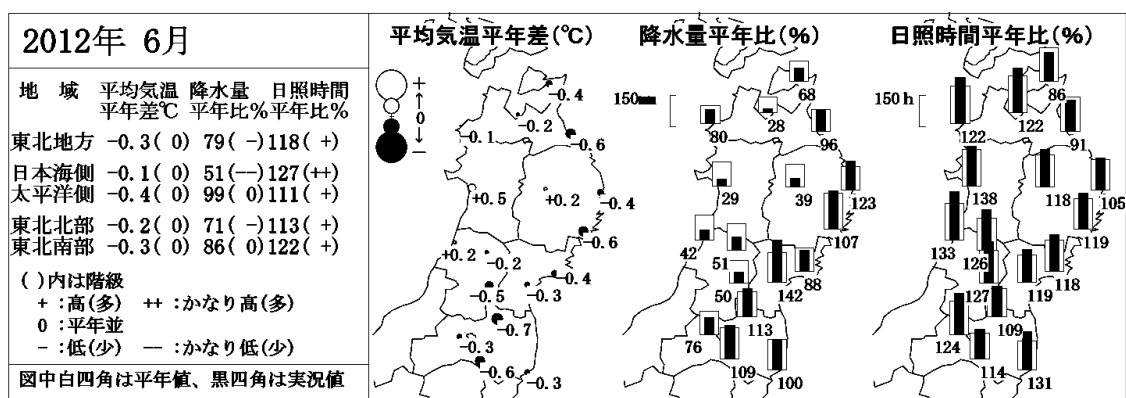
平均気温は東北北部で平年並、東北南部で低い。降水量はかなり少ない。日照時間はかなり多い。

（注）気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています（速報値）。  
細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は1981～2010年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

---

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

### (3) 2012年6月の月・旬平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比



平年値の統計期間は1981～2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

#### (4) 2012 年 6 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青 森	17.0	( -0.2)	○	21.0	( 28)	－*	8	218.4	( 122)	＋*
深 浦	17.2	( -0.1)	○	71.0	( 80)	○	10	222.7	( 122)	＋
む つ	15.3	( -0.4)	○	67.5	( 68)	○	8	139.8	( 86)	－
八 戸	15.6	( -0.6)	○	101.5	( 96)	○	7	151.8	( 91)	○
秋 田	19.7	( +0.5)	＋	34.5	( 29)	－*	9	243.7	( 138)	＋*
盛 岡	18.5	( +0.2)	○	42.5	( 39)	－*	8	182.5	( 118)	＋
大 船 渡	16.8	( -0.6)	○	184.5	(107)	○	9	175.8	( 119)	＋
宮 古	15.6	( -0.4)	○	143.0	(123)	＋	8	157.5	( 105)	○
仙 台	18.2	( -0.3)	○	207.0	(142)	＋	8	158.9	( 119)	＋
石 巻	17.3	( -0.4)	○	100.0	( 88)	○	8	176.4	( 118)	＋
山 形	19.3	( -0.5)	○	55.0	( 50)	－*	6	201.9	( 127)	＋*
新 庄	18.7	( -0.2)	○	65.0	( 51)	－	8	197.3	( 126)	＋*
酒 田	19.8	( +0.2)	○	50.5	( 42)	－*	9	236.7	( 133)	＋*
福 島	19.4	( -0.7)	－	138.5	(113)	＋	8	149.0	( 109)	＋
若 松	19.8	( -0.3)	○	84.5	( 76)	○	7	201.5	( 124)	＋*
白 河	18.0	( -0.6)	○	163.5	(109)	○	10	144.4	( 114)	＋
小 名 浜	18.1	( -0.3)	○	148.0	(100)	○	8	186.1	( 131)	＋*

(注) 1. 平年値は 1981～2010 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

＋:高い(多い)      ○:平年並      －:低い(少ない)

各階級の区分値は、1981～2010 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1981～2010 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「＋」に \* を付加した。この場合には

かなり高い(多い)      かなり低い(少ない)

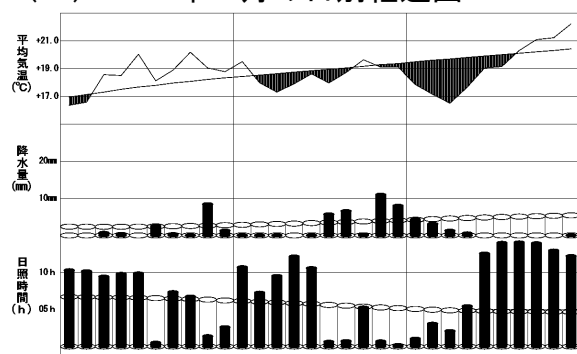
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

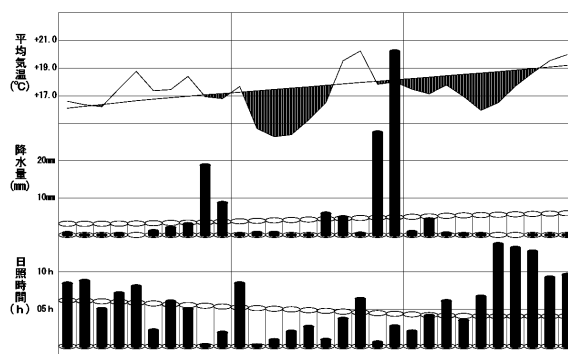
3. 値の横に ) や ] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

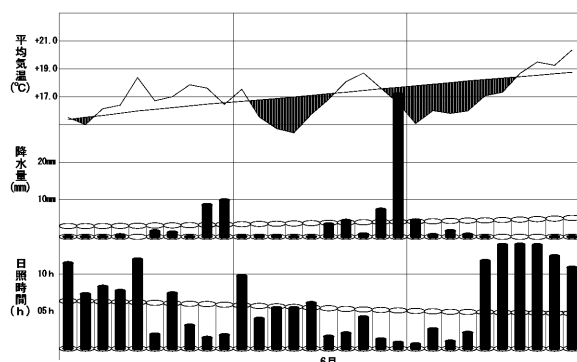
## (5) 2012 年 6 月の日別経過図



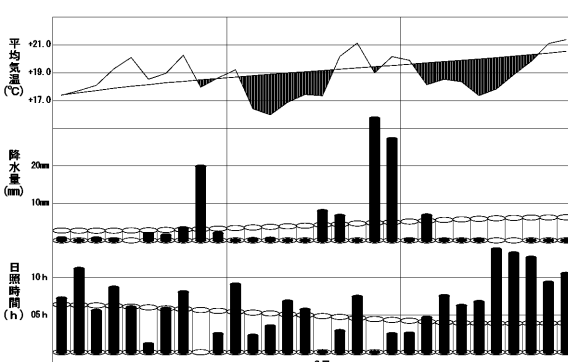
東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図



東南北部の日別経過図



東北南部の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）  
気温の陰影は平年値より低いことを示す。

## (6) 2012 年 6 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
3	盛岡	42.5	39	36.4 (1937)	1924	110.1

月間日照時間多い方からの順位更新

3 位以内はなし

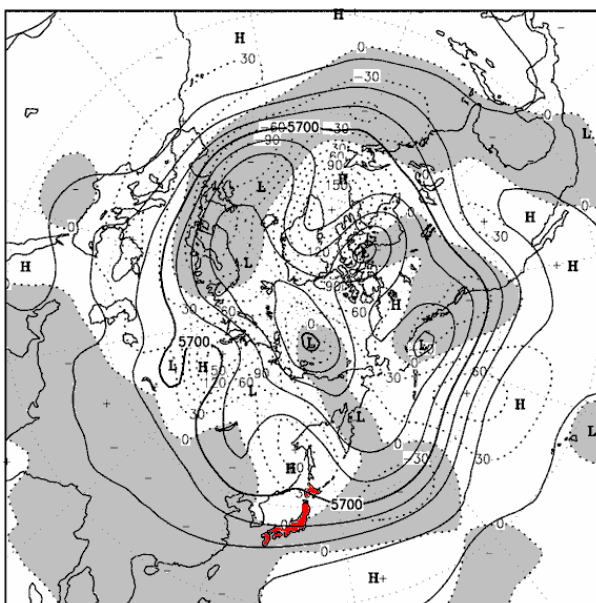
月間日照時間少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

### (7) 2012 年 6 月の循環場の特徴

500hPa 高度は、寒帯前線ジェット気流の蛇行が大きく、中国東北区付近から北日本にかけてブロッキング高気圧が発生し、気圧の尾根となった。そのため、オホーツク海高気圧が発生し、冷たく湿った気流が入りやすかった。太平洋高気圧の北への張り出しは弱かった。梅雨前線は、月の前半は日本の南海上に、月の後半は本州付近に停滞した。

東北地方の梅雨入りは平年並で、東北南部は 6 月 9 日ごろ、東北北部は 6 月 16 日ごろ梅雨入りした（速報値）。下旬は梅雨前線が西日本に南下し、東北地方は高気圧におおわれたため、降水量がかなり少なく、日照時間がかかなり多くなった。



2012 年 6 月の平均 500hPa 高度

実線は高度(m)、間隔 60m。点線は偏差(m)、間隔 30m。陰影部は負偏差（寒気に対応）。

### (8) 2012 年の梅雨入りの状況（速報値）

地方	平成 24 年	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	4 月 28 日ごろ	11 日早い	2 日早い	5 月 9 日ごろ	4 月 30 日ごろ
奄美	4 月 29 日ごろ	12 日早い	1 日早い	5 月 11 日ごろ	4 月 30 日ごろ
九州南部	6 月 4 日ごろ	4 日遅い	12 日遅い	5 月 31 日ごろ	5 月 23 日ごろ
九州北部	6 月 8 日ごろ	3 日遅い	18 日遅い	6 月 5 日ごろ	5 月 21 日ごろ
四国	6 月 8 日ごろ	3 日遅い	18 日遅い	6 月 5 日ごろ	5 月 21 日ごろ
中国	6 月 8 日ごろ	1 日遅い	18 日遅い	6 月 7 日ごろ	5 月 21 日ごろ
近畿	6 月 8 日ごろ	1 日遅い	17 日遅い	6 月 7 日ごろ	5 月 22 日ごろ
東海	6 月 8 日ごろ	同じ	17 日遅い	6 月 8 日ごろ	5 月 22 日ごろ
関東甲信	6 月 9 日ごろ	1 日遅い	13 日遅い	6 月 8 日ごろ	5 月 27 日ごろ
北陸	6 月 9 日ごろ	3 日早い	9 日早い	6 月 12 日ごろ	6 月 18 日ごろ
東北南部	6 月 9 日ごろ	3 日早い	12 日早い	6 月 12 日ごろ	6 月 21 日ごろ
東北北部	6 月 16 日ごろ	2 日遅い	5 日早い	6 月 14 日ごろ	6 月 21 日ごろ

(注) 梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に 5 日間程度の「移り変わり」の期間があります。ここに掲載した期日は移り変わりの期間の概ね中日を示しています。

「平年」は、平成 22 年（2010 年）までの過去 30 年の平均（入り・明けを特定しなかった年は除外）の日付です。